



通常総会の様子

第三十六回通常総会

# 新しい全改協の門出 一般社団法人移行後初めての総会

一般社団法人全国牛乳流通改善協会(全改協)は五月二十二日、東京御茶ノ水の東京ガーデンパレスで第三十六回通常総会を開催し、三十九名の正会員の出席がありました。

総会は、北川副会長の開会宣言後、橋本正敏会長が「本日は、一般社団法人に移行した全改協の新しい門出となる総会である。社会全体に「安心・安全」「社会貢献」「地域密着」へのニーズが強まっている。私たちはそこに我々の活動目的があることを再確認しつつ新しい活動につなげていきたい。さらに、「生・処・販」の「販」、スーパー、コンビニに次ぐ「牛乳三大物流」の一翼を占める「牛乳の宅配」を、かけがえのないスタイルとして守りたい。また、酪農乳業の関連団体との棲み分け、業界を問わず他の関連団体との積極的な連携を考慮していきたい。」と挨拶を述べ、また、「牛乳の日・牛乳月間」用に、加盟店で貼っていただくポスターを初めて全改協として作成したことも紹介しました(四面参照)。

来賓として出席された松尾和俊農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課課長補佐は、牛乳販売店は消費者との距離が近く、地域に密着した業態であり、ニーズに適応した牛乳乳製品の提供を続けていただきたいと挨拶されました。

次いで、木村敬「Jミルク普及グループ」長、土岡英明「雪印メグミルク株式会社取締役」のお二方からご祝辞をいただきました。詳しい内容は三面に掲載いたしました。が、いずれも、牛乳販売店は、お客様に一番近く、地域に密着している特徴をメリットとして挙げておられます。どうか加盟店の皆さまも、この点について改めて考え、日々のお仕事に活かしていただきたいと思えます。

祝電の披露の後、議長に堀田熊本県流改協会長、議事録署名人に中島 群馬県流改協会長、田村滋賀県流改協会長を選任して開始した議事は、前年度の事業報告、同決算報告、全改協組織強化資金取り崩し、本年度の会費案について審議し、承認可決されました。また、本年度の事業計画と本年度の収支予算についての報告がありました。総会本会議は、村田副会長の閉会の辞をもって終了いたしました。



発行所 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-15オリエンビル6階  
一般社団法人全国牛乳流通改善協会  
TEL.03-6380-8021  
FAX.03-6380-8435  
e-mail : mail@zenkaikyou.or.jp  
URL : www.zenkaikyou.or.jp

## 紙面から



第三十六回通常総会  
事業計画の概要 (一)二面  
流改協事務局担当者会議 (二)二面  
「牛乳の日・牛乳月間」実施報告 (三)二面  
(四)二面

### お知らせ

全改協は、Twitter、FaceBook を開設いたしました。本年度の事業「ママに牛乳どうぞ」キャンペーンの一環として広報サイトを設置したのを機に開設しました。活用は手探りの段階ですが、加盟店の皆さまに盛り上げていただければ幸いです。

- twitter <https://twitter.com/zenkaikyou>
- FaceBook <https://www.facebook.com/zenkaikyou>

その後懇親会でなごやかな交流が行われ、第三十六回通常総会を終了いたしました。平成二十五年度の事業計画の概要につきましては、次の「事業計画の概要」の記事をご参照ください。



# 毎日の健康を応援します!



消費者庁許可 保健機能食品(特定保健用食品)

## 森永カルダス

180ml

生きたまま腸まで届くビフィズス菌でお腹の調子を整えます!

- ミルクカルシウムが2倍(当社普通牛乳比)
- 森永独自のビフィズス菌(BB536)20億以上
- 鉄分1mg
- カルシウムの吸収を助けるビタミンD

日本人間ドック検診協会 推薦



## うるおう グルコサミン

115ml

動く、歩くを、心地よく

- グルコサミン1500mg
- 低分子コラーゲン1000mg
- ヒアルロン酸5mg
- カロリー49kcal 甘さひかえめ、すっきりタイプ

森永乳業



通常総会の様子

**挨拶**  
一般社団法人全国牛乳流通改善協会  
会長  
橋本 正敏氏



きありがとうございます。日頃は皆さまにご尽力いただき、各地区の運営がスムーズかつ活発に行われてい

ることに心から感謝申し上げます。今日は、本年四月一日に一般社団法人となった新しい全改協の門出の総会です。全改協は、設立以来、牛乳の普及拡大、牛乳流通の改善、牛乳販売店の向上を目的に活動してきました。私どもと関連の深いJミルクは、昨年度より消費者に直接向けた普及活動はしない方針を打ち出しました。しかし我々全改協は、今後

も、加盟店の活性化を目的とした活動と同時に、消費者に直接接する加盟店を通じて普及活動を進めます。Jミルクの研究結果を活用し消費者に伝えることで、一連のつながりを強化させたいと考えています。

また、今後の展望として、「生・処・販」三軸の一翼を担う業界団体として、①Jミルクの中でのプレゼンスをいまままで以上に高めること、②いわゆる「牛乳購買の三大物流」のひとつである宅配を守るために必要な環境を整えること、③乳業界のみならず業界以外の団体とも役割分担のすみ分けを分担し互いに連携すること、の三点を提案いたします。

なお六月の「牛乳の日・牛乳月間」に、全改協としての行動としてB2判のポスター六、三五〇枚を作り、全国の加盟店に送付しますので、活用していただきたい。

また本年度は、ワールドデーリーサミットが十月に横浜で開催されます。日本で開催される世界的な酪農・乳業の大きな催しですので、ぜひご参加ください。

今後とも皆さまが各地域で活躍いただくべく、ご尽力をお願いして開会の挨拶といたします。

円安、T P P、人口減少など、我々を取り巻く社会環境は厳しいものがありますが、それを嘆いてばかりはいられません。いま社会全体に「安心・安全」「社会貢献」「地域密着」へのニーズが強まっています。我々は、これらのニーズにタンスを置いた活動を続けていきます。

また、今後の展望として、「生・処・販」三軸の一翼を担う業界団体として、①Jミルクの中でのプレゼンスをいまままで以上に高めること、②いわゆる「牛乳購買の三大物流」のひとつである宅配を守るために必要な環境を整えること、③乳業界のみならず業界以外の団体とも役割分担のすみ分けを分担し互いに連携すること、の三点を提案いたします。

消費拡大は「生・処・販」三者の協力が不可欠ですが、全改協にはその一翼を担う重要な役割を果たしていただいております。牛乳販売店は、消費者との距離が近い、また地域に密着した業態である、という特質を活かして、顧客ニーズに適応した的確な消費者対応や、高付加価値な国産牛乳や乳製品の提供を続けていただきたいと思っております。

農林水産省では、昨年の補正予算による生乳需要基盤強化対策事業が

**祝辞**  
農林水産省生産局畜産部  
牛乳乳製品課 課長補佐  
松尾 和俊氏



ご挨拶申し上げます。日頃から我が国の乳業行政へのご理解、ご協力いただいておりますことを深く感謝いたします。

本年度も継続しているほか、二十五年度は、国産の農産物の消費を高めるため、日本の食に関する特別プロジェクト事業を実施しています。この中で国産の牛乳・乳製品も使っていただけるよう提言を行ってまいります。

今後はこれらの施策と、業界関係者みなさまとの連携により、牛乳・乳製品の消費拡大に努めてまいります。本日もご来席の皆様と、協会の今後の発展を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

全改協の、牛乳宅配業全体の継続・発展に向けた各マークを越えた取り組みは、市場環境、消費動向が大きく変化する中でますます重要なものと認識し、期待しております。

**祝辞**  
一般社団法人Jミルク 会長代理  
普及グループ部長  
木村 敬氏



おめでとうございます。本来であれば会長の浅野が出席しご挨拶申しあげべき所ですが、所用のため代理で失礼いたします。

日頃より、Jミルクに対しましては、総会をはじめ、各委員会への委員のご出席、ミルクカレンダーの制作等で大きなお力添えを頂き感謝申し上げます。特に委員会では、委員のご発言が、当会事業のレベルアップに大きく貢献されております。例えば「牛乳の日・牛乳月間」について、現状はお客様にほとんど認知されていない、Jミルクとしてもっと告知すべきのご指摘をいただき、この結果、統「ポスター」やリーフレットの作成と

改めて敬意を表します。

**祝辞**  
雪印メグミルク株式会社  
取締役  
土岡 英明氏



賛助会員メーカーを代表しまして、平素お世話になっておりますお礼と、総会開催のお祝いを申し上げます。また、一般社団法人移行おめでとうございます。これまでの役員・会員の皆さまのご尽力に改めて敬意を表します。

今後とも、牛乳流通業界の牽引役としての当協会のますますのご発展をご祈念し、ご祝辞とさせていただきます。

今後とも、Jミルクへのご支援ご協力をお願い申し上げます。非常に意義のある産業であり、加盟店さんの努力による成果です。全改協の加盟店さんは、いち早く、自分で防犯パトロールや、高齢者見守り活動をされましたが、まさしくこれらが地域密着活動の好事例だろうと思っております。

事業概要

# 事業計画の概要

## 事務局担当者会議にて事業計画の詳細な内容を説明

全改協は本年四月一日から一般社団法人に移行しました。移行の条件として、これまでの事業を引き続き実施する(「継続事業」というものがあります。このため平成二十五年度の事業は、すでに四年度の理事会にて、昨年度と同様の事業を実施する承認を受けており、本総会でその承認を受けた事業内容を報告しました。また、総会と同じ週の五月二十四日に、東京・市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷にて、都道府県流改協の事務局長にご出席いただき開催された「事務局担当者会議」にて、実際に事業を行っていただくための詳しい説明を行いました。それぞれの事業について目的、概要を次のとおりご説明します。

### 事業の内容

#### 1. 普及啓発事業

##### (1) 啓発活動事業

① 体験事業 牛乳屋さんのお仕事体験  
小学校では給食があり牛乳を飲む習慣があるが、中学校では給食を実施している学校が減ることから、育ち盛りの中学生が牛乳を飲む機会が、小学生に比べると減少する。中学校の授業に「職業体験」があるが、受け入れる職場が少ない状況にある。

そこで、全国の全改協の加盟店が受け入れ先となつて中学生を受け入れ、実際の業務を体験してもらい、それを通して、働くことの意義や基本を学んでもらうと同時に、牛乳乳製品が成長期の身体に有用な食品であることの理解を深め、中学生が牛乳を飲む機会を増やすことを促し、中学生の食生活の改善、健康増進ならびに体躯向上に寄与する。

② 啓発事業(妊産婦への牛乳促進「ママに牛乳どうぞ」キャンペーン)  
牛乳はバランスよく栄養が摂れ、他の食品に比べてカルシウムが豊富でしかも吸収が良いことから、健康には有益な食品である。特に、妊娠

中や授乳期の女性は、栄養の補給がいつも以上に必要になる時期であることから、妊産婦や授乳期の女性に対し、牛乳の飲用を促す啓発活動を行い、妊産婦や胎児の栄養補給、発育促進および健康増進に寄与する。

##### (2) 広報活動事業

① 広報物配布事業(ミルクカレンダー  
「牛乳屋さんのミルクカレンダー」2014)  
牛乳は各種栄養素がバランスよく含まれ、手軽に利用できる食品である。牛乳の利用をさらに拡大するためには、「飲む」だけでなく「料理」に活用することが有効である。牛乳に含まれる栄養素とその効用、調理する基本および牛乳を料理に取り入れる工夫を施したレシピ、牛乳乳製品の情報並びに宅配牛乳の利便性等を掲載したミルクカレンダーを作成し、消費者に無料配布する。「料理」することで、食生活の向上や健康増進につながることを目的とする。

今年度はJミルクが企画制作を行い、全改協は部数のとりのまとめ、印刷、配布を担当する。原則として、都道府県の流改協にとりまとめをお願

いする。

② 事例集発行事業(牛乳販売店優良事例)  
牛乳販売店は単に牛乳の配達だけでなく、地域の安全、パトロール、独居老人の見守り、高齢者世帯の買い物等の支援等を行っている。現在、消費者の牛乳購入の主力はスーパー等に移行しており、牛乳販売店からの購入は減少しているが、牛乳販売店は地域にとって不可欠な存在である。地域社会に貢献しながら飲用牛乳を広く普及させている加盟店の事例を広く全国から募集し、中央にて発表し、表彰する。それらの内容を「優良事例集」としてまとめ、全国の加盟店に配布し、飲用牛乳の普及に活用する。牛乳の普及拡大を通して国民の食生活の改善、体躯の向上ならびに健康増進等に寄与する。

#### 2. 組織強化事業

##### 機関紙「全改協だより」の発行

全改協における主な会議の実施報告、諸事業の取り組み状況、酪農乳業界の情勢、牛乳乳製品の情報および牛乳販売店経営の活性化近代化を図るための参考資料等を掲載し、都道府県流改協を通じて全国の加盟店に配布する。

#### 3. 事業会議

##### (1) 流改協会長会議

酪農乳業界をとりまく諸情勢や全

改協の加盟店の経営改善及び都道府県流改協組織の強化等について検討し、その対応策と指導体制の確立を図るための会議を年一回東京で開催する。

##### (2) 流改協事務局担当者会議

都道府県流改協において実施する諸事業を効果的に実施するとともに、流改協事務局の運営を円滑に行うため、流改協事務局担当者に対して事業内容の説明及び意見交換を行うための会議を開催する(五月二十四日開催)。



#### 4. 全改協ホームページ

組織の周知並びに提供すべき情報をタイムリーに掲載し、必要な部分の更新をその都度行う。同時に、宅配牛乳、宅配のしくみの啓蒙活動の支援充実を目指す。

#### 5. 関係団体への協力

① 牛乳乳製品の普及及び消費拡大に向けて、一般社団法人Jミルクの正会員として連携し、諸活動に積極的に協力参加する。

また、関係団体とも協力して諸活動に協力参加する。

② 全国牛乳商業組合連合会、日本乳販政治連盟、マーク団体及び乳業団体等関係諸団体とも緊密な連携をとり、酪農乳業界の発展のため協力する。

特に、全乳連、乳販政治連盟とは、共に乳販界を代表する団体であるので、

意志の疎通と情報の交換を行い、乳業界の発展に努める。

去る五月二十四日に実施された

「流改協事務局担当者会議」には、各都道府県の流改協の事務局長、ご担当者四十二名と、賛助会員メーカーのご担当者が出席し、上記の事業の説明を行いました。

ほかに、六月一日の「牛乳の日」、六月の「牛乳月間」にあわせた全改協の活動として、メーカー経由で各加盟店さん宛にB2判のポスターを配布すること、また、国際酪農連盟が、十月二十八日から十一月一日まで「ワールドデイルーサミット2013」を、本年は日本の横浜にて開催するにあたり、全改協として会員を対象に視察を計画していること、等をお伝えいたしました。

また、例年お願いしておりますが、各流改協で総会を開催された際には、総会資料を全改協事務局までご提出いただきたいとお願いを事務局からおくよう所轄官庁からの指導があるためです。ご協力をお願いいたします。

事務局担当者会議は、今までは総会開催から少し期間を空け、六月に入ってから開催でしたが、特に「牛乳屋さんのお仕事体験」に関連し、中学校の職場体験授業が夏休み中に実施される場合があると実施に間に合わないおそれがあるため、本年は総会直後の開催となりました。

会議終了後は懇談会が開かれ、出席の担当者の方々が橋本会長に促され壇上に出てコメントを述べるなど、打ち解けた雰囲気でお開きとなりました。

雪印メグミルク

おいしさそのままに

MEGMILK

# メグパワー

内容量  
100ml



カルシウム

1本に 350mg 含有

ラクトビオン酸

1本に 175mg 含有

MBP

1本に 40mg 含有

ビタミンD

1本に 2.5µg 含有

MBPは、雪印メグミルク(株)の登録商標です。

雪印メグミルク宅配フリーダイヤル

商品に関するお問い合わせ

0120-758-369

(受付時間:日・祝除く9:00~17:00) <http://www.meg-snow.com/takuhai/>

なごやか ミルク



全改協から

# 「牛乳の日・牛乳月間」に関する取り組み



6月1日は「牛乳の日」、6月は「牛乳月間」です。これは、FAO(国際連合食糧農業機関)が2001年に、6月1日をWorld Milk Day(世界牛乳の日)とすることを提唱したことによります。日本もこれに合わせる形で、6月1日を「牛乳の日」、また6月の1ヶ月間を、食育月間でもあることから「牛乳月間」としたものです。日本の酪農乳業界挙げて、6月にはさまざまな催し、イベントが行われました。私たち全改協に関係する事業・イベント等の実施結果を紙面でご報告します。

## 加盟店店頭用ポスターの制作・配布

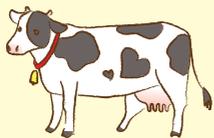
▶「牛乳月間」6月のカレンダーを模した、牛乳月間訴求のポスターを作成しました。

大きさはB2判、作成枚数は6,350枚です。

各都道府県の流改協加盟店数で配分し、5月末に流改協にお届けしました。

各加盟店さんにも届き、店頭に掲示していただいたことと思います。

### 6月は牛乳月間



(紙面の原稿から差し替えました)

## 「ママに牛乳どうぞ」キャンペーンの実施

▶インターネットのモニターサイト「QZoo」のモニターを中心に、本年度事業「啓発事業(妊産婦への牛乳促進)」を「ママに牛乳どうぞ」キャンペーンと銘打ち、3ヶ月間宅配牛乳半額補助のモニターを全国の妊産婦から募りました(下図)。



現在、該当する各加盟店では、妊産婦さんの世帯と契約を結び、宅配を始めてくださっているところと存じます。できるだけ、モニター期間の3ヶ月が経過後も、とり続けていただくようお客様に勧めてください。

またこれとは別に、「我ら赤ちゃん和妈妈応援団」という告知広告(<http://www.takuhai-gyunyu.com/>)をインターネット上に掲載しています(右図)。

妊産婦の時期はカルシウムや鉄分が特に必要なこと、宅配牛乳があればそれらの不足分が補えること、宅配牛乳は買い物に不自由する妊産婦の時期に便利なこと等、ママと赤ちゃんに宅配牛乳をお勧めする理由を説明しています。ここからも、モニター募集を期間限定で行いました。



## 「牛乳の日」記念学術フォーラム 「牛乳は子どもたちを救えるか! 子どもたちの成長・食生活に向き合う」

▶乳の学術連合 主催、一般社団法人Jミルク共催で、6月1日の「牛乳の日」に東京・東銀座の時事通信ホールにて、学術フォーラムが開催されました。

各分野の専門家(医師、栄養士、酪農教育)がそれぞれの立場から、現代の子どもが抱える問題点とそれに対する牛乳、乳業、酪農の持つ有効性について講演され、最後にはパネルディスカッションが行われました。



牛乳が、普段接することのあまりない分野でどのように可能性を持つのかということが各講師のお話の中で明らかになり、有意義な時間でした。

紙面でもご紹介しておりますが、本年10月28日より、国際的な催し「ワールドデューリーサミット2013」が開催されます。これが日本で開催されるのは実に22年ぶりです。ここでも、普段接することがないようなシンポジウム等のプログラムが組まれており、国際的な学術会議に接するまたとない貴重な機会です。全改協でも加盟店さんのご出席に補助をすることになります(詳細は追ってご説明します)ので、ぜひご出席されてはいかがでしょうか。